

山 口 大 学

独 仏 文 学

第 46 号

Die Beunruhigung (1982) et *Erscheinen Pflicht* (1984) :

malaise en République démocratique allemande

..... Michel de BOISSIEU (1)

フランス語の移動様態動詞 *marcher* の終結性について

..... 武本 雅嗣 (31)

Der Ursprung vom Stammaslaut *w* der westgermanischen Verba pura

..... 下 寄 正 利 (55)

山口大学独仏文学研究会

2024

山 口 大 学

独 仙 文 学

第 46 号

山口大学独仙文学研究会

2024

山口大学独仏文学研究会会則

- 第1条 本会は山口大学独仏文学研究会と称する。
- 第2条 本会は、正会員、名誉会員および準会員によって構成する。
1. 正会員とは本学の独語学独文学・仏語学仏文学の専任教員で、本会の趣旨に賛同する者をいう。
 2. 名誉会員とは本会の正会員として定年退職した者および転出時に10年以上本会の正会員であった者をいう。
 3. 準会員とは独語学独文学・仏語学仏文学の研究者で、本会の趣旨に賛同し、本会が認めた者をいう。
- 第3条 本会は独語学独文学・仏語学仏文学の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 毎年総会および研究会・合評会を行う。
 2. 毎年1回会誌「山口大学独仏文学」を発行する。
- 第5条 本会誌は独語学独文学・仏語学仏文学に関する論文、書評、翻訳、研究ノート・資料、随筆を掲載する。
- 第6条 本会誌の編集には会員の互選による2名の委員があたり、会計も兼ねるものとする。その任期は1年とする。また年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第7条 編集委員の招集する総会では会計報告、次期編集委員選出、次期本会誌の執筆申し込み期日の決定等を行うものとする。
- 第8条 会員は会費を均等に負担するものとする。ただし、名誉会員および準会員は、本人の論文等が本会誌に掲載された年度のみ会費を均等に負担する。
- 第9条 規約の変更は会員の賛同のもとに総会で行うものとする。
- 附則 この会則は、平成24年度より改正施行する。

(申し合わせ)

1. 原稿執筆枚数を400字詰め原稿用紙100枚までとする。従来のように、本会誌頁数21頁まで（ほぼ50枚）は均等負担とするが、それを超える超過分については自己負担とする。
2. 準会員と成りうるのは、原則として本学の独語学独文学・仏語学仏文学の非常勤講師とする。現在・過去は問わない。
3. 名誉会員および準会員には、編集委員や総会出席等の義務はない。
4. 論文に関しては編集委員が依頼する主査と副査が査読を行い、その審査報告に基づいて編集委員会が採否を決定する。編集委員会は改稿を求めることがある。（令和元年6月7日、メール審議により了承、令和2年2月21日、総会にて修正された事項。）

会 員 名 簿

正会員

ドイツ語学

下 嵯 正 利 (人文学部)

フランス語学・フランス文学

○武本 雅嗣 (人文学部)

○ミシェル・ド・ボアシュ (人文学部)

名誉会員

ドイツ語学・ドイツ文学

岡 光 一 浩

フェリツィタス・ドーブラ

中 尾 光 延

フランツ・ヒンターエーダー＝エムデ

本 田 義 昭

松 尾 誠 之

米 澤 充

フランス語学・フランス文学

末 松 壽

平 山 豊

準会員

フランス語学・フランス文学

ジャン＝クロード・ボシール

五十音順による。○は編集委員。

編集後記

今年度の『独仏文学』には、人文学部の教員3名の論文が収められています。下嵯先生は西ゲルマン語の音節末音「w」の起源について説明しています。武本先生はフランス語の動詞「marcher」を意味論の観点から検討しています。ボアシュは、東ドイツ映画『Die Beunruhigung』と『Erscheinen Pflicht』について書いています。このように、『独仏文学』の投稿者は継続的に欧州の言語と文化の様々な面を研究し、その成果を発表しています。投稿論文の質を確保するため、2018年の総会の決定に基づき査読制度が導入されている。今年度、編集委員会は、学外の研究者3名に審査を依頼した。一方、インフレと円安により日本とヨーロッパとの往来が難しくなったため、留学したい学生も、海外の講演会に参加したい教員も、計画を諦めなければならなくなっています。このような時期には、日本でドイツとフランスの文化を紹介する紀要の役割がさらに重要になったと言えます。『独仏文学』の会員たちは、自分が興味のあるテーマについてこれからも執筆し続けていきます。

(文責：ミシェル・ド・ボアシュ)

査読者（敬称略）

金子 真（岡山大学非常勤講師）

黒沢 宏和（近畿大学法学部教授）

下嵯 正利（山口大学独仏文学研究会正会員、山口大学人文学部准教授）

Michel de Boissieu（山口大学独仏文学研究会正会員、山口大学人文学部教授）

Franz Hintereder-Emde（山口大学独仏文学研究会名誉会員、山口大学人文学部名誉教授）

Loïc Renoud（岡山大学文学部准教授）

令和6年12月25日

発行者 〒753-8540 山口県山口市吉田1677-1
山口大学人文学部内

山口大学独仏文学研究会

印刷所 〒759-0204 山口県宇部市妻崎開作1953-8
有限会社 三共印刷

YAMAGUCHI DAIGAKU
DOKUFUTSU BUNGAKE

No. 46 (2024)

INHALT – TABLE DES MATIÈRES

Die Beunruhigung (1982) et *Erscheinen Pflicht* (1984) :

malaise en République démocratique allemande

.....Michel de BOISSIEU (1)

Étude diachronique du verbe de manière de mouvement

« marcher » en français.

..... Masashi TAKEMOTO (31)

Der Ursprung vom Stammaslaut *w* der westgermanischen Verba pura

..... Masatoshi SHIMOZAKI (55)

YAMAGUCHI DAIGAKU
DOKUFUTSU BUNGAKE KENKYUKAI

ISSN 0387 – 6918